イノシシ用の檻に集まる動物の調査(Ⅱ)

Animals collected by a trap for boars (II)

梅村錞二

Junji Umemura

要 約

- (1) イノシシは近くにモウソウチク, コナラ, ジネンジョ, ワラビ等があり, 小川や沼田場のある場所に現れやすい. 時期により食べ物が不足するようになると, 里に出て田畑等を荒らす傾向が強い. 一度檻にかかって逃げ出したり, 他の動物が檻に入って暴れている様子を見たりしたイノシシは, 檻を極端に警戒する. 檻の外の餌を食べていても, 檻が目に入ると素早く引き下がる. 時には親子で檻に近づくことがある. 子供の方が先に檻に近づき, あとから親がついて来るので, 子供だけ檻にかかることが多い.
- (2) 一般的にキツネ、タヌキは薄暗くなれば餌場に現れる.その後にイノシシが現れる傾向がある.キツネとタヌキは同時に現れることはない.普通はキツネの方が早く,その後にタヌキが現れる.キツネは常に単独で現れ,タヌキは2匹で来ることが多い.時には3匹で来ることもある.キツネやタヌキは餌を食べていても,時々頭を上げ,耳を立て大型動物が来るか探る動作をする.来なければ檻の近辺を行ったり来たりして比較的時間をかけて餌を食べる.イノシシが来れば,素早く近くに身を隠すが,イノシシが餌場を離れれば,再度餌場に現れることが多い.
- (3) アライグマが檻に現れる回数はキツネ、タヌキ、イノシシと比較して極端に少ない. 現れる回数が少ないだけに、檻の危険なことを知らないらしく、中央の餌を食べるので捕獲されることが多い. 檻にかかってもイノシシのように扉に体当たりするような暴れ方はしないが、檻から出ようとして下の目から前足を出して土を掘り続ける. 檻の四辺に浅い溝ができる. 人が近づいても人に向かって飛び掛かる動作はしない.
- (4) 鳥類ではスズメとヒヨドリが餌場に現れる回数が多い. 特に明るいうちに餌場の準備にかかると, 両種が即座に現れる. 昨年の秋 (2018年10月) 以降ソウシチョウ (特定外来生物) が餌場を覚えて, 朝夕ともに薄暗い時間帯にも現れるようになった. 最近では餌を持って檻に近づくと, 既に10羽近くのソウシチョウが近くの枝にとまって, 餌を待っている状態である. 餌を撒けば3m 先まで来て餌を拾うようになっている. ヒョドリは遠くから見ていて, 帰る頃に餌場に下りる. ヒョドリとソウシチョウは喧嘩することなく, 仲良く餌を食べる. イノシシの餌場を特定外来生物 (ソウシチョウ) の餌場にしてはならないと考えている. 夜間の餌が残っている時は, ヒョドリとソウシチョウが終日餌場を離れない.

キーワード:イノシシ用の檻,警戒心の強いイノシシ,特定外来生物(ソウシチョウ)

はじめに

イノシシ用の檻に集まる諸動物の連日の調査を始めて3年目になる. イノシシ用の檻に集まった哺乳類の5か月間(2018.1.1~2018.5.31)の調査結果は、矢作川研究23号に既に公表している(梅村,2019). 今回はその後を含めた1年間(2018.1.1~2018.12.31)の調査結果をまとめた. 当初のねらいはイノシシが最近檻の危険なことを認識し、檻の中や近くの餌を食べなくなったので、檻の近くでどのような動きをするかを調査することにあった. 時にはキツネやタヌキ等が檻に入ることがあるので、イノシシ以外の諸動物がどのような動きをするのかも調査することにした. 何れも夜行性の動物なので、赤外線の夜間撮影用のカメラを設置して(2017.5.26)調

査している. 赤外線カメラなので恒温動物の哺乳類と鳥類が対象になる. カメラのセット時刻が遅いと哺乳類が中心になるが、明るいうちにセットすると鳥類の動きも撮影できる.

1. 調査場所

檻の設置場所は、豊田市西広瀬町四日市の県道 11 号から約 50m 離れた山裾の山道である (図 1). 途中にクリやヒノキの植林があるので、県道からは檻は見えない、人通りは殆どなく、年に 2、3 回電力会社の作業員が奥にある鉄塔の調査に通るだけで、常時は静かな山道である。その都度草刈も実施するので、雑草が生い茂ることはない、かつてはこの山道の脇に水田があり、稲作が行



図1 山裾の檻の設置場所(右下に細流がある).

われていた. 今は耕作放棄されてから何十年も経過し雑木が繁茂している. 落葉樹が多いので, 夏季は日影が多いが, 冬季は比較的明るい. かつての水田の場所には水溜りや湿地部分が残っている. ここがイノシシの恰好な沼田場になっている. 時々水溜りが掘り返されているので, イノシシは使っていると思われる.

2. 調査方法

(1) 餌と餌場の位置

イノシシの餌は主に米糠であるが、その他の動物を寄せるために、米糠の周辺に安価な駄菓子(センベイ類その他)、残飯、魚の頭や内臓、かびた干し柿等をばら撒いておく.餌は檻の中央部(図 2)と檻の入り口から数十cm離れた場所に置き、さらに約3m離れた場所に米糠の小山を造る.イノシシが檻に近づかない時には、帯状に米糠を撒いたり、檻から約10m離れた場所に小山を造ったりする.イノシシの来る方向や現れる頭数が変わる時には、臨機応変に餌の量や形、置き場所等を変更する.イノシシを檻に近づけるためにはこの餌場の位置



図2 檻の中央部の米糠の小山.

や形が大きく影響するからである.

(2) 夜間撮影用のカメラの位置

餌場は複数個所あるが、撮影用の赤外線カメラは檻か ら数十cmの餌場にピントを合わせる.この餌場の米糠 の小山の周囲に駄菓子等をばら撒いておくと, イノシシ 以外の動物も集まり易い. カメラは檻の近くの太いヒノ キの幹に固定(高さ約1.5m) する(図3). 樹木が細い と風で揺れたり、降雨があると直接雨にさらされたりす るからである。カメラは写真と動画(15秒)で記録す るようにセットする. 降雨があってもカメラの表面は濡 れるが、本体の中へは水は入らない構造になっている. 電池は単3,8本の充電式を利用している.連日,夕方セッ トし、早朝に回収する. 山道だから暗くなるとセットが 難しいので、多忙な時には比較的早くセットする日があ る. 明るいうちにセットすると野鳥が撮れることが多い. 薄暗くなってからセットすると哺乳類が中心になる. 回 収後は電池を取り外し、直ちに充電して翌日に備える. メモリーの写真と録画は PC に保存するとともに、詳細 をノートにも記録する.



図3 カメラの位置と捕獲許可証.

(3) 檻の構造と動物捕獲後の檻の整備

箱形の檻(100 × 100 × 200cm)を利用している.バネで中央の板をつり上げ、この板上に動物が乗ると前後の扉が落ちる仕掛けになっている.中央の板の上にはビニルシートを敷き、その上に薄く土を乗せ板が分からないようにする.板の上の土の高さと、前後の土の高さをほぼ同じにする.バネが弱いとキツネやタヌキが乗っても扉が落ちてしまうので、バネは大物が乗ると落ちる程度に強く張っている.しかし、タヌキやアライグマが2匹以上乗ってしまうと、落ちることもある.イノシシが檻に入って扉が落ちると、逃げ出そうとして翌朝まで暴

れまくるので、ビニルシートや砂止めの竹だけでなく、 内部全体が大幅に破損することになる。大型の個体が入ると特に次の準備に時間がかかる。板の下の土をかき出し、土止めの竹を取り替え、ビニルシートを敷いて土を 入れて整地する。その後、バネを調節して小動物が乗っても扉が落ちないようにする。再セットまでにはかなりの時間もかかるし、狭い場所での前かがみでの活動が中心になるので厳しい仕事と言える。

3. 調査結果

(1) 餌場に動物がいた時間

檻に集まる動物は日によって種類も違うし、現れる時刻も回数も決まっていない.一例として2018(平成30)年2月6~7日を挙げると次のようになる(表1).イノシシ、タヌキ、キツネが入れ代わり立ち代わり計10回餌場に現れている.哺乳類の場合は、餌場に現れるのは常に1種のみである.今回の調査では、イノシシが2回現れているが同じ個体と思われる.キツネ、タヌキはよく似ているので同じ個体か別の個体かは分からない.大きさ、毛色、動き等が類似しているからである.一夜のうちに10回の出入りのあるのはそれ程珍しいことではない.多い時には十数回の日もある.イノシシが来た時には、キツネやタヌキは近くに身を隠していて、イノシシが餌場を離れると、素早く餌場に現れることが多い.キツネはいつも単独で行動するが、タヌキは多くの場合2匹で行動することが多い.

表 1 哺乳類の出現時刻と退去時刻 (2018.2.6 ~ 7).

気温	種類	頭数(匹数)	出現時刻	退去時刻
4℃	イノシシ	1	17:57:21	18:16:18
-5°C	タヌキ	1	18:22:12	19:07:36
-3℃	イノシシ	1	19:49:48	19:53:23
-6°C	キツネ	1	20:25:58	20:43:31
-7℃	タヌキ	1	22:00:20	22:48:39
-8℃	タヌキ	2	0:01:03	1:35:07
-6°C	キツネ	1	1:43:59	2:16:33
-6℃	タヌキ	2	2:41:40	3:11:03
-4°C	キツネ	1	3:27:07	4:03:50
-7°C	タヌキ	1	4:04:36	4:25:26

(2) 動物の現れる回数が少なかった日

1年を通じて何も現れない日はごく稀である. 2018(平成 30) 年 1月 24日は雪が降りイノシシだけが現れて、雪の中の餌場を探し当て食べている. キツネやタヌキは

現れていない. イノシシはそれだけ嗅覚が発達していると言える. 晴れた日でも最初にイノシシが現れ, なめるようにしてきれいに餌を食べてしまった日には, タヌキ等も全く現れない日もある.

(3) 各月の上・中・下旬に動物が現れた日数

一夜に複数回現れる動物は多いが、同じ個体の可能性もあるので、複数回現れても1回と計算している。表2に示した5日や8日等の日数は、10日(11日)間のうち5日や8日現れたことを意味する。10日間のうち毎日現れることが最も多いのはタヌキであるが、他はタヌキと比較すれば多いとは言えない。特に多いのはタヌキで群を抜いている。中にはアカネズミのように、ある時期だけ現れる種類もある。赤外線カメラなので哺乳類と鳥類が記録されるが、カメラを明るいうちにセットすれば鳥類が中心に記録され、薄暗くなってからセットすれば哺乳類が中心になる。カメラをセットする時間は日によって若干異なるので、鳥類に関しては、正確な結果とは言えない。

(4) 1年間で動物が現れた日数

現れた日数の最も多いのはタヌキで、次いでイノシシ、キツネと続くがこの3種が群を抜いて多い(表3).一夜のうちにこの3種が現れることは少ないが、この中の1種は必ず毎夜現れる.アカネズミ、ノネコは現れだすと継続して現れるが、来なくなると全く姿を見せなくなる.アライグマは定期的に現れることはない.ニホンリスが姿を見せるのは極めて稀である.鳥類では留鳥のスズメとヒヨドリは多いが、コジュケイは群れで来るが回数は多くない.ソウシチョウは年末に餌場を覚えてから連続して現れている.

(5) 1年間に捕獲された哺乳類

イノシシは檻の近くの餌場に1年間のうち195日現れており、約2日に1日以上現れたことになる.連続して現れたこともあるし、断続的に現れたこともある.同じ個体のこともあるし、別の個体の場合もある.時には母親がウリボウを連れて来ることもあり、今までの最多は8頭連れて来ている.檻の近くの餌場まで来ても中の餌を食べるイノシシは非常に少なく、捕獲したのは1年間に10頭のみである.それだけ檻を警戒していると思われる.学習能力が意外に高いので、他の動物が檻に入って大暴れしている場面を見て檻の怖さ、恐ろしさ、危険さを学習したと思われる.一度、このような場面に遭遇

表2 動物が現れた日数.

30.1.1(月)~30.1.10(水)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	7	
キツネ	7	
タヌキ	7	
ヒヨドリ	4	
スズメ	2	

30.1.11(木)~30.1.20(土)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	8	
キツネ	8	
タヌキ	8	
ヒヨドリ	3	

30.1.21(日)~30.1.31(水)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	8	
キツネ	8	
タヌキ	6	
アライグマ	1	
ヒヨドリ	3	
スズメ	3	

$30.2.1(木) \sim 30.2.10(土)$

種類	現れた日数	捕獲数	
イノシシ	5	1	
キツネ	6		
タヌキ	6		
ヒヨドリ	2		

30.2.11(日)~30.2.20(火)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	5	1
キツネ	9	
タヌキ	9	
ヒヨドリ	4	

30.2.21(水)~30.2.28(水)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	3	1
キツネ	5	
タヌキ	6	

30.3.1(木)~30.3.10(土)

種類	現れた日数	捕獲数
キツネ	6	
タヌキ	6	
ノネコ	1	
ヒヨドリ	1	

30.3.11(目)~30.3.20(火)

種類	現れた日数	捕獲数
キツネ	7	
タヌキ	5	
スズメ	1	

30.3.21(水)~30.3.31(土)

種類	現れた日数	捕獲数
キツネ	8	
タヌキ	8	
スズメ	2	
キジバト	1	
ハシブトカラス	1	

30.4.1(日)~30.4.10(火)

種類	現れた日数	捕獲数
キツネ	3	
タヌキ	7	
ヒヨドリ	1	
キジバト	1	

30.4.11(水)~30.4.20(金)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	2	
キツネ	3	
タヌキ	4	
ノネコ	1	
ヒヨドリ	5	
コジュケイ	1	

30.4.21(十)~30.4.30(月)

00.4.21() 00.4.00()1)			
種類	現れた日数	捕獲数	
イノシシ	10		
キツネ	5		
タヌキ	1		
ニホンリス	1		
コジュケイ	3		
ヒヨドリ	4		

30.5.1(火)~30.5.10(木)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	5	1
キツネ	2	
タヌキ	5	
ノネコ	1	
コジュケイ	3	
ヒヨドリ	1	
スズメ	1	

30.5.11(金)~30.5.20(目)

0010111 (<u>11.</u>) 00101 0 0 (-)			
種類	現れた日数	捕獲数	
イノシシ	3	1	
キツネ	4		
タヌキ	7	2	
ニホンリス	1		
ヒヨドリ	3		
スズメ	6		

30.5.21(月)~30.5.31(木)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	4	
キツネ	1	
タヌキ	10	
ニホンリス	1	
アカネズミ	1	
ノネコ	1	
スズメ	11	

表2 動物が現れた日数 (続).

30.6.1(土)~30.6.10(日)

30.6.11(月)~30.6.20(水)

$30.6.21(木) \sim 30.6.30(+)$

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	6	
キツネ	2	
タヌキ	9	
アカネズミ	5	
アライグマ	1	
ノネコ	1	
スズメ	7	
キジバト	1	

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	7	
タヌキ	10	
アカネズミ	9	
アライグマ	1	
スズメ	10	

00.0.21 (パワ 00.0.00 (工)		
	現れた日数	捕獲数
シ	4	
-	9	
(3	4	
t	6	
	10	
	シ バミ	現れた日数 シ 4 - 9 ボミ 4 1 6

30.7.1(日)~30.7.10(火)

30.7.11(水)~30.7.20(金)

30.7.21(土)~30.7.31(火)

001111(11) 00111110()()			
種類	現れた日数	捕獲数	
イノシシ	6		
タヌキ	8		
アカネズミ	5		
アライグマ	1		
コジュケイ	1		
ヒヨドリ	2		
ハシブトガラス	2		

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	10	
タヌキ	10	
アカネズミ	5	
アライグマ	1	
スズメ	10	
ハシブトガラス	5	
キジバト	1	

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	8	2
タヌキ	7	
アカネズミ	1	
スズメ	2	
キジバト	2	
ヒヨドリ	1	

30.8.1(水)~30.8.10(金)

$30.8.11(生) \sim 30.8.20(月)$

30.8.21(火)~30.8.31(金)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	8	1
タヌキ	8	1
アカネズミ	5	
アライグマ	1	1
ノネコ	1	

50.6.11(上) 50.6.20(月)		
種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	10	1
タヌキ	6	
アカネズミ	7	
コジュケイ	2	
スズメ	2	
キジバト	1	

00.0.01()		
種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	9	
タヌキ	5	
アカネズミ	7	
アライグマ	1	
コジュケイ	2	
ハシブトガラス	1	

30.9.1(土)~30.9.10(月)

30.9.11(火)~30.9.20(木)

30.9.21(金)~30.9.30(日)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	8	
アカネズミ	3	
コジュケイ	2	

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	8	
タヌキ	2	
アカネズミ	1	
ノネコ	1	
アライグマ	1	
コジュケイ	1	
キジバト	1	

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	9	
タヌキ	1	
ノネコ	1	

30.10.1(月)~30.10.10(水)

30.10.11(木)~30.10.20(土)

30.10.21(日)~30.10.31(水)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	8	
キツネ	2	
ノネコ	2	

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	5	1
ノネコ	4	

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	7	
キツネ	2	
タヌキ	8	
ノネコ	7	
キジバト	1	

表2 動物が現れた日数 (続).

30.11.1(木)~30.11.10(土)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	8	
キツネ	2	
タヌキ	10	
ノネコ	3	
スズメ	2	
ヒヨドリ	1	

30.11.11(日)~30.11.20(火)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	9	
キツネ	4	
タヌキ	10	
ノネコ	2	
スズメ	1	

30.11.21(水)~30.11.30(金)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	4	
キツネ	6	
タヌキ	10	
ノネコ	9	

30.12.1(土)~30.12.10(月)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	6	
キツネ	5	
タヌキ	10	
ノネコ	9	
アライグマ	1	
ソウシチョウ	3	

 $30.12.11(火) \sim 30.12.20(土)$

00112111 (> 1) 00112120 (11)		
種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	1	
キツネ	6	
タヌキ	10	
ノネコ	2	
アライグマ	1	
ソウシチョウ	3	
セグロセキレイ	1	

30.12.21(金)~30.12.31(月)

種類	現れた日数	捕獲数
イノシシ	2	
キツネ	3	
タヌキ	11	
アライグマ	2	2
ソウシチョウ	10	
セグロセキレイ	1	
キジバト	1	

表3 動物が現れた日数 (合計).

種類	現れた日数	
タヌキ	222	
イノシシ	195	
キツネ	109	
アカネズミ	44	
ノネコ	44	
アライグマ	10	
ニホンリス	7	
スズメ	48	
ヒヨドリ	34	
ソウシチョウ	16	
コジュケイ	15	
キジバト	10	
ハシブトガラス	9	
セグロセキレイ	2	

すると、暫くの間イノシシは餌場に現れなくなるので、 再び檻から遠く離れた場所に餌の小山を造り、順次慣れ させ、檻の近くの餌場に誘うことになる。最近では一度 捕獲すると、何か月もかけて檻に近づけるのが現状であ る。一方、タヌキはあまり檻の怖さを意識しないらしく、 捕獲後2~3日で餌場に現れるし、檻の中の餌も食べる。 タヌキは軽いので檻の中の餌を食べても簡単には扉も落 ちないし、落ちても檻のマス目から抜け出すことがある。 最初は頭を外に出して逃げ出そうとするが肩が邪魔をし て出られないが、何回も逃げ出す動作を繰り返すうちに、 頭と前足1本をマス目から出すことを覚えて、逃げ出したことがある。一度捕獲を経験したタヌキは、入り口の餌場まで来て檻が目に入ると、引き下がることもあるが、しばらくすればまた中の餌を食べるようになる。キツネは檻の中の餌も食べるが、一度も扉が落ちたことはない。アライグマは肩幅が広いので、扉が落ちると外には出られない。捕獲した10頭のイノシシと3頭のアライグマは(表4)猟友会に引き渡している。

表4 哺乳類の捕獲数.

種類	捕獲数
イノシシ	10
アライグマ	3
タヌキ	3

(6) 哺乳類各種が撮影開始後最初に現れた回数

餌場を準備し、カメラをセットする時刻は夕暮れであるが、最初に現れる回数はタヌキ、イノシシが圧倒的に多い(表 5). キツネは檻に現れる回数は少ないが、現れる日は両者と比較して早い時間帯に現れる. 薄暗くなるとまもなく現れることが多い. 夜行性動物の中ではキツネは動き出す時刻が早い仲間と言えよう. ノネコ、アライグマは檻に現れる回数は多くないが、現れる日は比較的早い時間帯に現れる. 大型の哺乳類が現れる前に餌を求める長年の習性とも考えられる. 檻の危険性を意識しないイノシシが来ると餌をきれいに食べつくしてしま

うので、あとから来た小動物は餌にありつけないが、警戒心の強いイノシシの場合は全部の餌を食べつくすことは少ないので、あとから来た小動物は餌にありつけることになる.餌は米糠が中心であるが、駄菓子類その他も周囲に撒くので、現れる小動物も様々である.同じ餌を続けるとこの餌に慣れて、最初に現れる種類も決まることもある.イノシシ以外の小動物は米糠よりもその他の餌の方を積極的に食べる傾向がある.キツネやタヌキは前足で米糠をかき分けて好きな餌を探して食べる傾向がある.米糠があたり一面に広がるので、キツネかタヌキが来たことは容易に分かる.

表 5 撮影開始後最初に現れた回数.

哺乳類	回数
タヌキ	150
イノシシ	112
キツネ	46
アカネズミ	27
ノネコ	25
アライグマ	4
ニホンリス	1

4. 檻に集まる動物

(1) イノシシ Sus scrofa

イノシシ科,イノシシ属.生息地は低山帯から平地にかけての,低木や雑草等が繁茂している所に多い.当地方ではウラジロが群生している場所が各地にあり,イノシシがここをねぐらにすることがある(図4).また灌木を積み重ねたり,落ち葉や枯草をかき集めたりして寝ることもある.降雨の場合は岩や大木の陰などで寝る.連日同じ場所で寝ることは少ない.休むときは腹ばいに



図4 イノシシがねぐらにし易いウラジロ.

なる. 足を伸ばして横になって寝ることはない. 危険を感じた時,素早く逃げる準備態勢とも考えられる. 不用意にねぐらに接近すると立ち向かって来ることがあるので注意したい. 体表には外部寄生虫のダニ類等が多数付着していることが多い. 山野で生涯を送る動物だけに当然と思われる. この寄生虫等を落としたり,体温を調節したりするために,泥の中で体をこすったり,泥を付着させたりすることがある. イノシシが泥浴する場所を沼田場と言うが,これはイノシシが泥田で横になって激しく動き,体に泥を付着させる動作の「のたうち回る」からそう呼ばれるようになった(図5).

食性は雑食性で、人の食べるものなら何でも食べる. 食欲も旺盛で一晩にソフトボール大のカボチャを十数個 食べたことがある.数mの畝の収穫寸前のジャガイモ を全て掘ってしまったこともある.また、最近は昼間で も活動するようになり、檻の周辺でヘビ類を見る機会が なくなった.イノシシの餌食になったと考えられる.体 長は雄110~170cm、雌100~150cmで雄の方が大きい. 時々大物が捕獲されることもあるが、120~130cmの 個体が多い.体表は茶褐色から黒褐色が多く、剛毛で覆 われている.中には白っぽくなった個体もいる.犬歯は雌 雄ともにもつが、牙になっている(図6).牙は雄の方が



図5 イノシシの沼田場.

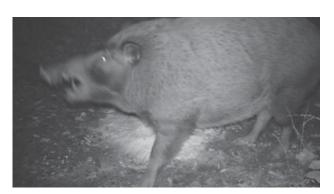


図6 巨大イノシシの牙(雄).

大きく頑丈である. 足は短く寸胴で体重もあるが (80~ 190kg), 運動能力は抜群(図7)である. 走ることも速 いが動きも活発で、一晩に何kmも移動する. 鼻から首に かけて力が特に強く, 雌雄ともに数十kgの石や材木は 平気で移動させる. 伐採して積み上げてある太いヒノキ の丸太を移動させて, その下のワラビの地下茎等を簡単 に掘り出して食べる. 短時間で土手を崩したり, ジネン ジョの多い湿地を深く掘ったりしてしまう. 檻の中の餌 を食べて出入口の重い扉が頭や背中に落ちても平気で持 ちこたえて逃げ出してしまう. 力も強いが骨格も頑丈に できている. 猟期(11月15日~3月15日)に入ると, 猟友会員がチームを組んで猟犬を使って捕獲するので, 一時的には個体数は減少するが、猟期が過ぎれば人里に 現れるイノシシは増加する傾向にある. 各地で田畑や農 作物を荒らしまくるので, 中山間地では被害が深刻で, 大きな課題になっている. 山田や離れた畑の作物づくり を諦めて、耕作放棄した家庭も多い.

体が大きく動きも速く力も強いが、非常に神経質で警戒心の強い一面もある. 見慣れていないものを見ると避ける習性がある. 今まで背丈のある雑草が広がっていた畑の周囲の草を刈ってしまうと、暫く現れないことがあ



図7 運動能力に優れているイノシシ.



図8 親子で餌場に現れたイノシシ.

る. 視力は低いが、嗅覚は非常に発達しているので、土中のミミズ、各種のイモ類、ワラビの地下茎などを容易に掘り当てる. 刈った草を樹木の根元に寄せておくと、簡単に草をはねのけたり、樹木の根まで掘り出したりして、ミミズ等を探して食べる.

電気柵(電源は単I×8本)を設置して田畑を囲むと、冬季は雑草が伸びないので効果は大きいが、夏季になると草の伸びが早いので、頻繁に草刈が必要になる. 時には冬季でも電柵の下を掘って侵入することがある. 鼻先などは導線に接すればかなりのショックを受けると思われるが、胴部や尾部は剛毛で毛深いので導線に触れてもあまりショックは受けないとも考えられる.

メッシュ (100 × 200cm) で田畑全体を囲めばかなりの効果が期待できる. メッシュは長さが 2m であるので、その中間に1本の鉄の棒を打ち1m 間隔に固定しても、途中を折り曲げて下から入ることがある. その途中にもう1本の鉄棒を打ち込み、50cm 間隔にすれば、かなり安全と言えるが、地盤の軟らかい場所ではメッシュの下を掘って中に入ることがある (図 9).



図9 鉄棒を50cm 間隔に打ち込んだメッシュ.

イノシシは記憶力も非常に優れており、体験するとすぐ覚えてしまう。一度畑の作物を食べると、次の日にも必ず訪れる。全部食べないで帰るとまた次の日に続きを食べに来る。全部食べて帰ってもまた次の日にも現れることが多い。

かつては檻に近づくのは夜間に限っていたが、最近では昼間でも堂々と檻の近くに現れている。特にウリボウは頻繁に現れる。また、道路を横切ったり、小川を渡ったりする場面を見かける。自動車の直前を横切ることもある。中山間地の道路では移動する通路が決まっており、同じ場所でよく見かける。単独の場合も複数の場合も子連れの場合もある。県道11号線には、西広瀬町と枝下町の境を矢作川側から山側へ走って移動する獣道があ

る. 足助地区では夜間にはイノシシだけでなくニホンジカ,タヌキ,ハクビシン等を見かけると言う. 動物は自動車の往来には関係なく,急に飛び出してくるので注意したい. 西広瀬町内ではかつて親子8頭のイノシシが大型車に衝突したことがある.

捕獲したイノシシは猟師に殺処分を依頼している. ウリボウなどの小型の個体はバッテリーを使用する. 中型以上の個体は主に槍を使用するが, 時には銃を使用することもある. 繁殖期は12月だからこのころのイノシシは脂ものり, 肉も多く, 高蛋白, ビタミンB群, コラーゲン等も多いので好んで食用にする. 最近では肉の活用法も工夫され, 専門店だけでなく, レストラン等でも扱うようになっている. イノシシ肉を使ったカレーも登場している. また, ハムやソーセージ等の加工品まで販売している. なお, 中型以上のイノシシを解体して肉を取り終わるまでには, 連日解体している猟友会員でも, 数人で2, 3時間かかっている. ダニ類が多いので水洗いから, 必要な部分を取り終わり,後始末までを含めるとかなりの時間を要することになる(図10).



図10 中央の餌を食べて扉が落ちたイノシシ.

2018 (平成30) 年9月以降岐阜県の養豚場と野生のイノシシに「豚コレラ」が発生している。その後豊田市、田原市の養豚場や野生のイノシシにも広がっている。2019年7月7日に捕獲されたウリボウ3頭も検査の結果陽性であったことから、猿投地区にも広がっていると言える。2019年5月以後足助、藤岡、石野、保見各地区でも陽性のイノシシが捕獲されたり、死骸が見つかったりしている。国も豚コレラの拡大を防ぐために野生のイノシシにワクチン入りの餌を2019年3月以降食べさせている。その後も愛知、岐阜両県だけでなく、群馬、長野などの12県に豚コレラが拡大している。関係の自治体や養豚業者の強い要望で、国も2019年12月に豚へのワクチン接種を決めている。これ以上拡大を防ぐため

に、発生県に隣接する栃木、茨木、千葉、東京などの8都府県の豚にもワクチン接種を決めている。これらの地域では、2020年1月現在豚コレラは未発生であるが、感染が波及する前に地域を拡大して接種を決めている。その後も新しい県で豚コレラが発生したり、ワクチン接種をした親から産まれた子ブタが陽性であったりしているという報告もある。豚コレラが完全に収まるまでにはかなりの時間がかかりそうである。

(2) タヌキ Nyctereutes procyonoides

イヌ科, タヌキ属. 体長は50~60cmの小型の哺乳類. 体重は2~8kg. 冬場には長短の体毛が密生し、丸々し ている. 体色は灰褐色で、目の周囲や足は黒っぽい. 食 性は雑食性で両生類, 魚類, 昆虫などの小動物, 植物で は芽、葉、果実、種子等を食べる. また、檻の近くの餌 場では、米糠も食べるが、付近に駄菓子類を撒いておく と好んで食べる. 餌場には単独で来ることもあるが、多 くは2匹で来る. 時には3匹で来たこともある. 餌場で は他種の動物と一緒に現れることはない. 最初はキツネ より早く来ることはなかったが、餌場を覚えてからは日 暮れ直後に現れることが多くなった. イノシシが来れば 一時的に餌場を離れるが、イノシシが離れれば素早く餌 場に戻ることが多い. 他の動物が来なければ, 餌場付近 に行ったり来たりを繰り返し、比較的長時間餌を探しな がら留まることが多い. 時々足を止めて耳を立てて,他 の動物の足音を聞くような動作もする. イノシシと比較 すれば軽いので、中央の板に乗っても扉は簡単には落ち ない. しかし2匹が同時に乗ったり、吊るしてある餌を 飛び上って取ったりすると、扉が落ちることがある.こ の場面を見たタヌキは、 檻の近くまで来ると一度は立ち 止まることが多いが、 暫くすれば以前と同じように檻の 中央の餌を食べるようになる. イノシシの場合は一度経 験すると、当分の間は檻に近づかないが、タヌキは短期 間のうちに檻に近づくようになる. このことからもイノ シシの方が学習能力は高いと言えよう. 最近はタヌキが 頻繁にしかも早くから餌場に現れるようになり、キツネ やノネコの現れる回数が減少している. イノシシよりも タヌキ中心の餌場になりつつある (図11). 猟期になる とイノシシが若干減るので、一層タヌキ中心の餌場とい う傾向が強い.

(3) キツネ Vulpes vulpes

イヌ科,キツネ属. 夜行性動物で瞳孔はネコ同様縦長である. 体長は $60 \sim 90$ cm. 体重は雄は約6kg, 雌は約



図11 餌場に現れた3匹のタヌキ.

5kg. 体色は赤褐色で、胸と腹は白い、背部と尾の付け根に臭腺を持ち、特異な臭いを発する。雑食性で昆虫などの小動物や果実を食べる。米糠の周囲に駄菓子を潰してばら撒いておくと好んで食べる。また、米糠の中に駄菓子を混ぜておくと、前足で米糠をかき分けて餌を探すので、あたり一面に米糠が散らばることになる。キツネもタヌキも米糠も食べるが、駄菓子の方が好きなようである。檻の入り口にプラスチックの板を置き、その上に餌を置くと、口で板をくわえて安全な場所まで引きずって食べることができる。巣穴に生活するが、中は幾つかの小室に分かれ、入り口も何か所もある。餌場には常に単独で現れ、複数で来たことはない。

夕方薄暗くなると最初に現れることが多かったが, 檻 を設置して半年も経過すると、タヌキが餌場を覚えて複 数で早く来るようになり、キツネの現れる時間帯が遅く なった. 現れる日数も大幅に減少した. タヌキが常時複 数で来ることと関係しているのかも知れない. タヌキが 先に来て餌を食べてしまうと、後から来たキツネは餌が ないので早く引き上げることが多い. タヌキも檻の周囲 を移動しながら餌を探すが、キツネの方が動きは速い. キツネの体型はスマートであるので、中央の餌を食べて 扉が落ちても、檻の目から抜け出すと思われる. 檻を設 置してから20年以上になるがまだ1匹も捕獲されてい ない. 動く範囲も広いのでカメラの視野から消えても, 再度視野に入ることは多い. 体の大きさや体色などから 同じ個体の場合が多い. また、タヌキは一晩のうちに数 回視野から出たり入ったりするが、キツネは多くてもほ ぼ3回までである. キツネもタヌキもイノシシが近づく と餌場を素早く離れるが、イノシシが餌場を離れると比 較的早く餌場に現れるので, 隠れ家もそれほど遠くはな いと思われる (図12).



図12 駄菓子を好んで食べるキツネ.

(4) アライグマ Procyon lotor

アライグマ科, アライグマ属, 特定外来生物. 原産は カナダ南部. 日本へはペットとして輸入され, 1970年 代以降飼育個体が逃げ出したり, 放逐されたりして全国 各地に広がった (財団法人自環境研究センター, 2008). 手を洗うような仕草をするところからこの和名がある. 体毛は灰褐色で、目の周囲は黒く、尾には4~7のリン グ状の模様があるのでタヌキとは容易に識別できる(図 13). 夜行性の動物だから夜間に田畑等に出て果実,野 菜をはじめ、昆虫、両生類、魚類、甲殻類等も食べる(財 団法人自環境研究センター,2008). 非常に手先が器用 なので、スイカやメロンなどは畑から持ち出し、平地の 食べ易い所まで運んで前足を上手に使って中身だけを取 り出して食べる、皮だけを残して帰る、トマトなども茎 から取って食べる. イノシシ用の檻近くの餌場にも度々 現れるが回数は少ない. 檻の近くに来る回数が少ないの で危険なことは知らないらしく, 檻の中の餌を食べるこ とが多い. 当然出入り口の扉は落ちることになる. イノ シシなどと比較して捕獲される確率は高い. 扉が落ちて もイノシシのように大暴れをすることはない. 逃げ口を



図13 餌場に現れたアライグマ.

探すために檻の最下段の目から前足を出して、土をかき 寄せる動作を繰り返す.一晩中この動作を続けるので檻 の外側に長い溝ができる.人が近づいても向って来るこ とはないので、写真などは撮影し易い(図14).

アライグマの皮膚や骨格は非常に丈夫にできているので、殺処分には手間取ることが多い. バッテリーでは難しいので、イノシシ用の槍を使うことが多いが、慣れた猟師でも予想以上の時間がかかる.



図14 檻に入った2匹のアライグマ.

(5) アカネズミ Apodemus speciosus

ネズミ科, アカネズミ属, 小型のネズミで日本の固有 種. 北海道から九州まで広く分布する. 体色は口吻から 尾の先端まで橙褐色で、腹側は白い、頭胴長は8~ 14cm, 体重は20~60 gの小型のネズミである. 低地 から高山帯までの田畑や森林で、穴を掘って生活する. 夜行性動物だから夜間に地表に出て活動する. イノシシ 用の檻の周辺にも現れるが、動きが速く、餌場の付近を 素早く動き回って餌を探して食べる. 単独で現れるのが ふつうで、複数で来ることは少ない、自然界では植物の 種子や根茎,動物では昆虫等を食べるが,檻の付近では 駄菓子や残飯を細かくしておくと素早く拾って食べる. 餌場に現れる時期は決まっていて,5月下旬から9月中 旬にかけて連日のように姿を現すが、それ以外は全く姿 を見せない. (図 15) 秋にはドングリやクルミの実を巣 穴や岩陰に貯蔵する習慣がある (子安ほか, 2016). ノ ネコがいる間は当然付近に隠れていて, 同時に現れるこ とはない. ノネコがいなくなると, 再び現れて動き回っ て餌を探す. 小型で、中央の板に乗っても扉の落ちる心 配はないので自由に動き回る.



図 15 夜行性のアカネズミ.

(6) ニホンリス Sciurus lis

リス科, リス属. 頭胴長は16~22cm, 尾長は3~17cm と長い. 森林にすむが低山地の松林に多い. マツの多いゴルフ場では時々見かける. ふつうは単独で生活する. 夏毛は背面が赤褐色,冬毛は伸びて灰褐色になる. 昼行性で,食性は植物食が中心で,植物の芽,花,果実,種子,キノコ等を食べる. 時には節足動物や野鳥の卵等も食べる. 冬眠はしないが,植物の枝の間や地中に食物を貯蔵する習性がある. イノシシの餌場にも現れることがあるが,極めて稀である. 今回の調査でも1年間に2回姿を見せたのみである (図 16).



図16 檻の中に現れたニホンリス.

(7) ノネコ(ノラネコ) Felis silvestris catus

ペットとして飼っていたネコが野生化したものである.ノネコは小型の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類など様々の生き物を食べる.絶滅危惧種まで食べてしまうので、深刻な問題になっている.1匹の雌は生涯で50~150匹も出産が可能なので、絶滅危惧種には大きな影響を与えることになる.餌場には白い大きいネコ

と白と黒の中型のネコの2匹が現れるが回数は多くない. 現れる時は連続で来るが,来なくなると何十日も来ない時がある.

現れる時間帯も決まっていない.薄暗くなった直後に来ることもあるが、午前2~3時に来ることもある.米糠に魚類を混ぜた日に現れる回数が多いようである.ノネコは軽いので檻の中央の板に乗っても、扉は落ちることはない.もし落ちても檻の目から抜け出ることができる.なお、小型の箱形の檻に竹輪やハンペンなどを入れておくと、ハクビシンなどはなかなか入らないが、ノネコは簡単に捕獲できる(図17・18・19).



図17 餌場に現れたノネコ.



図18 餌場に現れたノネコ.



図19 小型哺乳類を捕獲する箱型の檻.

(8) ヒヨドリ Hypsipetes amaurotis amaurotis

ヒヨドリ科,ヒヨドリ属.狩猟鳥で,里山や公園で見 かける身近な野鳥である (図 20). 全長は約 27cm で, 尾が長く体形はほっそりしている. 頭部から胴体は灰色 の羽毛で覆われている. 主に樹上で生活するが、餌を食 べる時には地上に降りることもある. 飛ぶときは数回羽 ばたき, その後羽根をたたんで滑空するので, 飛ぶ軌道 は波型になる. 食性は主に果実や花の蜜を食べるが、時 には昆虫類も捕食する.冬になると餌が少なくなるので, センダン (図21), ナンテン, ピラカンサス, センリョウ, マンリョウなどの実を食べる. 矢作川の水辺に背丈が十 数 m のセンダンの大木が 4 本あり、冬季には多数の果 実をつけるが、ヒヨドリの数十羽の群れが来て短期間に 一つ残らず食べつくしてしまう. 果実がなくなるとキャ ベツ, ブロッコリー, ホウレンソウ等の葉を食べる. 農 作物を群れで荒らすので農家からは嫌われている野鳥の 1種である. イノシシ用の餌場にも集団で集まる. 狭い 餌場にも数十羽集まることがある. 米糠だけでなく, 駄 菓子類も好んで食べる. 繁殖期は5~9月と比較的長い. 庭のツバキやアメリカハナミズキ等に枝の付け根に直径 12~20cmの巣を造り、4個前後の卵を産む. 巣の高さ が $1.5 \sim 2.0$ m と比較的低いので、ヘビ類に捕食される ことが多い. 毎年庭に巣を造るが満足に巣立ったことは 少ない.



図20 イノシシ用の檻の餌場に集まったヒヨドリの群れ.



図21 ヒヨドリの群れに果実を全て食べられたセンダン.

(9) ソウシチョウ Leiothrix lutea

チメドリ科, leiothrix 属, 特定外来生物, 日本の侵 略的外来種ワースト100. 原産はヒマラヤ西部からミャ ンマー南西部, 北東部, インドからベトナムの北東部, 中国の中部から南東部までである(財団法人自環境研究 センター, 2008). 体も鳴き声もきれいなので, 中国で は家庭で飼育している. 日本でも人気があり, 飼育され た個体が逸出したり, 放たれたりして野生化した(財団 法人自環境研究センター, 2008). 1980年代に東京近辺 で繁殖が確認され、その後全国に広がっている。豊田市 で最初に確認されたのは1998年で、現在高岡と上郷地 区を除いて他の全ての地区で繁殖が確認されている(子 安ほか, 2016). 一見, メジロに類似するが, 大きさは メジロよりやや大きく,体色は背側が暗緑色で頭はオ リーブ色, 目の周囲は白, 咽は黄色, 羽には黄色と濃い 赤色の斑紋がある. 嘴は赤いので他の種類とは区別しや すい. 食性はチョウやガの幼虫等を食べる. 標高の高い 所に多いが、冬季には山間部に餌がなくなるので、平地 に降りて越冬する. 檻の餌場に最初に現れたのは2018 (平成30) 年11月24日の夕方である.2回目に現れた のは11月28日の夕方である. その後は連日のように現 れている. 数羽の場合もあるが、多い時は30数羽にな ることもある. 12 月に入ってからは連日, 夕方と朝方 に現れるようになった. 餌は米糠よりも駄菓子を細かく した方を好んで食べる. 餌をくわえて素早く飛び立った



図22 餌場に現れたソウシチョウ.



図23 ヒヨドリとソウシチョウが仲良く餌を食べる.

り、また新しく餌場に降りたりするので、正しく羽数を数えることは困難である。夕方にはかなり薄暗くなってからも現れるし、朝方も薄明るくなれば餌場に現れることが多い。時にはヒヨドリがいても、かまわず餌場に降りて活発に餌を拾う(図 23)。両者は餌の取り合いや喧嘩はしない。身が軽く扉が落ちる心配はないので、朝晩だけでなく、日中にも餌が残っておれば餌場を離れない。現在では、イノシシ用の餌を持ってカメラをセットに行くと、既に近くの樹木の枝に 10~20羽のソウシチョウが待っている状態である。餌を撒いて少し離れれば数羽のソウシチョウが速やかに餌場に降りる。これではイノシシ用の餌場が特定外来生物の養殖場になりかねないので、最近は可能な限り遅く餌を撒き、早朝のカメラの回収も早くするようにしている。

(10) コジュケイ Bambusicola thoracicus

キジ科, コジュケイ属. 現在では本州, 四国, 九州に かけて広く分布するが、日本の在来種ではない. 原産は 中国南部である. 1919年に東京都と神奈川県に狩猟目 的で放鳥したのが最初である. それ以降各地で繁殖し分 布範囲も広がっている. 形態はハトに類似する. 顔は赤 褐色で、体は丸っこくて尾は短い. 頭部と胸部は青味に がかった灰色で、羽には黒褐色の虫食い状の斑紋が多数 ある. ふつう数羽の群れをつくり行動し、歩きながら餌 を探して食べる. 複数の子供を連れて行動することもあ る. 危険を感じた時には、素早く走ったり、短距離であ れば飛んだりすることもできる. 食性は雑食性で種子, 果実, 昆虫類, クモ類等を食べる. 主な生息地は林の中, 草原、農地等であるが、時には人里にも現れることがあ る. 時々山道を歩いていると, 突然数羽のコジュケイが 羽音高く飛び出す場面に出会う. イノシシ用の餌場にも 現れるが、回数は限られている. この1年で餌場に現れ たのは4月に4回,5月に3回,7月に1回,8月に4回, 9月に3回の計15回のみである(図24).



図24 餌場に現れたコジュケイの親子.



図25 餌場に現れたスズメ.



図 26 餌場に現れたハシブトガラス.



図27 餌場に現れたキジバト.

(11) その他の鳥類

スズメ (図 25),ハシブトガラス (図 26),キジバト (図 27),セグロセキレイの 4 種も檻の餌場に現れるが、留 鳥のスズメを除いて他の 3 種の餌場に現れる回数は限られている.スズメは米糠が大好物なので、年間を通じて 餌場に現れたが、2018 (平成 30) 年 11 月下旬以後ソウシチョウが連日現れるようになってからは、全く姿を見せなくなっている.ソウシチョウも米糠を食べるので、スズメが追い出された形になっている.特定外来生物の 在来種への影響と言える.

謝 辞

前号の「イノシシの檻に集まる哺乳類の調査」に続いて、今回も豊田市矢作川研究所の皆さんに編集その他で格別のご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

引用文献

子安和弘・岡田慶範・小鹿登美・吉村文孝(2016) 哺乳類. 豊田市生物調査報告書(分冊その3),豊田市生物調査委員会;337-367.

梅村錞二 (2019) イノシシ用の檻に集まる哺乳類の調査. 矢作川研究. 23:69-75.

財団法人自然環境研究センター (2008) 日本の外来生物. 平 凡社.

豊田市自然愛護協会顧問・矢作川研究所元所長・豊田市) 史(自然編)総集編執筆委員

【〒470-0309 愛知県豊田市西広瀬町四日市328